

2-(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

大学の基本使命

芸術を学ぶ者達に、人類危機の時代を克服しようとする強い意志をどう植えつけるか。
他者の痛み想像力に働かせ、多くの人々の幸せのために芸術の力を用いる姿勢をどう養うか。
困難な問題を解決し社会を変革する創造力をどう身につけさせるか。
すなわち、芸術家魂をもった者達をどう世の中に送り出すか。
文藝復興とは、文藝復興を担う人間の育成にほかならず、それこそがわが学園の最も重要な使命である。

建学の理念

芸術的創造と哲学的思索によって、良心を手腕に運用する新しい人間観、世界観の創造を目指す。

教育目標

人類が直面する困難な課題を克服する人間の「想像力」と「創造力」を鍛え、社会の変革に役立てることのできる人材の育成。
芸術文化を原動力とする新しい文明への展望と人類と自然への深い愛情に満ちた哲学の確立。

特色

京都造形芸術大学では、通学課程を中心に「生きる基礎力をつける」「実社会を学びの場にする」ことを機軸にした人間力教育に、また通信教育課程を中心にした「多地域・多世代の教育」に力が注がれています。これらの取り組みはすべて、文部科学省の『質の高い教育推進プログラム(教育GP)』に選定されました(平成15年度「多地域・多世代の交流による教育プログラム」、平成20年度「頭と手を動かすワークショップ型初年次教育」「リアルワークによるキャリア教育」)。また、積極的に「国際交流プログラム」にも取り組んでいます。

生きる基礎力をつける

入学したばかりの1年生全員が、学科横断的に編成された1チーム約35名で体験型ワークショップに参加し、「モノの見方、作り方、考え方」など現代の社会で硬くなりやすい認知の枠組みを緩めることから大学のカリキュラムが始まります。その後、同じチームで3～5㎡の「ねぶた」のコンセプト構築からデザイン、模型制作、計画、制作まで3ヶ月半にわたって取り組むことで、個の力を集団で活かし、個人では成し得ないほどの大きな仕事をするためには何が必要なのかを学びます。また「食」や「農」などを通じた五感を育むための取り組みも、生きる基礎力習得のひとつとして行っています。

マンディプロジェクト：<http://www.kyoto-art.ac.jp/art/special/monday/>

実社会を学びの場にする(リアルワークプロジェクト)

各界の最前線で活躍する人に師事する機会を創出するため、映画スタジオや工房など、学内にその制作現場を設け、またインターンシップの枠組みを積極的に取り入れています。また、新商品のデザイン開発や百貨店のウィンドウディスプレイなど、産学連携のプロジェクトも専門部署を設置して年間約40件を受託、500名を超える学生が参加しています。

リトルワークプロジェクト：<http://www.kyoto-art.ac.jp/art/special/realwork/>

ウルトラファクトリー：<http://www.kyoto-art.ac.jp/art/special/ultra/>

多地域・多世代の教育

18歳から95歳まで、日本全国津々浦々に通信教育課程に学ぶ学生がいることから、全国的なフィールドワークを展開し、地域固有の環境を活かした実践的な授業を行っています。これは単なる地域研究にとどまらず、地域間、世代間の交流そのものを貴重な学習機会として育てているもので、地域での新しい文化共同体の形成に寄与してきました。これらの活動の成果は、通信教育課程の在学・卒業生を中心にした東日本大震災の支援ネットワークが形成されるなどの形で花開いています。

国際交流プログラム

2007年に国際交流委員会が学内に設置されて以来、国際交流協定を締結した大学は2015年5月1日現在、24校にのびます。国際的に羽ばたくことを志す学生のための専門部署が設けられ、交換・認定留学、海外研修ツアー、海外語学研修、国際プロジェクトなど、様々な国際交流活動を推進しています。

国際交流の取り組みについて：<http://www.kyoto-art.ac.jp/info/cie/initiatives/>

2-(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

大学の基本使命	
芸術を学ぶ者達に、人類危機の時代を克服しようとする強い意志をどう植えつけるか。 他者の痛みに想像力を働かせ、多くの人々の幸せのために芸術の力を用いる姿勢をどう養うか。 困難な問題を解決し社会を変革する創造力をどう身につけさせるか。 すなわち、芸術家魂をもった者達をどう世の中に送り出すか。 文藝復興とは、文藝復興を担う人間の育成にほかならず、それこそがわが学園の最も重要な使命である。	
建学の理念	
芸術的創造と哲学的思索によって、良心を手腕に運用する新しい人間観、世界観の創造を目指す。	
教育目標	
人類が直面する困難な課題を克服する人間の「想像力」と「創造力」を鍛え、社会の変革に役立てることのできる人材の育成。 芸術文化を原動力とする新しい文明への展望と人類と自然への深い愛情に満ちた哲学の確立。	
学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針
芸術学部	【教育目標】 京都造形芸術大学は、豊かな想像力をもって新しいもの・ことを創りだす〈創造力〉と、自立したひとりの人間として他者を肯定しともに生きていく〈人間力〉とをそなえ、他者とともに喜びをもって新しい価値を社会に生み出すことのできる創造的人間を育てます。 【ディプロマポリシー】 京都造形芸術大学は、本学で学士号を取得するすべての学生に、本学の教育目標が掲げる、豊かな想像力をもって新しいもの・ことを創りだす〈創造力〉と、自立したひとりの人間として他者を肯定しともに生きていく〈人間力〉とを身につけることを期待します。〈創造力〉と〈人間力〉は、それぞれ以下の能力によって構成されと考えます。 豊かな想像力をもって新しいもの・ことを創りだす 〈創造力〉 ・好奇心をもって世界を観察し、知を求め発見することができる「探求力」 ・ものごとの関係性を見つけ、経験や知識をもとに考えることができる「思考力」 ・独自のイメージを発想し実現に向けて計画することができる「発想・構想力」 ・イメージやコンセプト、プランをさまざまな方法でかたちにできる「表現力」 自立したひとりの人間として他者を肯定しともに生きていく 〈人間力〉 ・みずから積極的、社会的に行動することができる「行動力」 ・目標に向かって、あきらめることなく続けることができる「継続力」 ・他者を知り協調し、よりよい関係を築くことができる「コミュニケーション力」
	【カリキュラムポリシー】 京都造形芸術大学のカリキュラムは、教育目標に掲げる〈創造力〉〈人間力〉、それらを構成する7つの能力をバランスよく身につけることができることを方針としています。カリキュラムは、「専門教育科目」「創造学習科目」をその二本の柱としており、それらを構成する各科目の編成方針は次のとおりです。 「専門教育科目」には、 ・学生一人ひとりが目指す専門的な目標を達成するための「専門科目」 ・学生のキャリアを資格面でサポートする「教職科目」「学芸員科目」が含まれます。 「創造学習科目」には、 ・〈創造力〉〈人間力〉の基盤を形づくる「創造基礎科目」 ・これからの学習に必要な教養や基礎力を身につける「基礎教養科目」 ・自分自身のキャリアをイメージし、それを現実に変えていく力を獲得する「キャリア創出科目」が含まれます。 また、カリキュラムの運営にあたり、以下の二点を定めます。 ・教育目標である〈創造力〉〈人間力〉を構成する7つの能力を、各科目の運営の指針とし、かつ評価指標とする。 ・学生一人ひとりの習熟度、キャリアプランに応じた履修指導・学習指導を行う。

2-(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針
大学院 芸術研究科 芸術専攻(修士課程)	【ディプロマ・ポリシー(DP)】 ・芸術・文化に関する広範で清新な知識をベースにしながら、個別の専門領域において発見した独自のテーマを柔軟かつ論理的な思考によって展開し、高度な成果物として表現できること。 ・専門領域はもとより、幅広く芸術全般への好奇心と探究心を有し、社会における芸術の意義と役割を認識できること。 ・既存の価値観にとらわれることなく、新たな視点による学際的研究に取り組み、その成果を学術論文としての確にまとめることができること(特に「修士(学術)」授与の場合)。 ・自己と他者、芸術と社会、個と全体の関わりについて真摯に向き合い、高度なコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を備え、作家、研究者などの専門的職業人や芸術的手法を駆使する社会人として、芸術分野の将来的発展に寄与できること(特に「修士(芸術)」授与の場合)。
	【カリキュラム・ポリシー】 ・「芸術による平和創造」という本学全体の理念の共有化を図るとともに、日本の芸術・文化の普遍性と個性を広い視野から概観することによって、学生の研究または研究・制作活動を刺激し、テーマの発見・探究・創出の糸口を提示する。 ・研究または研究・制作を進める上での基礎となる方法に関して、芸術研究の支柱である「比較論、歴史、造形史、精神史、身体論的研究」の各視座からその基底となる考え方を教示する。 ・各学生の専門的視座に特化した講義科目を開講し、新たな視点による芸術文化研究あるいは芸術表現に取り組む基礎を養う。 ・各学生に主たる指導教員を配し、個別指導を行なう。1年次は、主として問題意識の啓発とその研究展開を図る方法論を指導する。2年次は、1年次からの継続性を重視しつつ、学位審査に向けた(研究または研究・制作)課題の設定と、その提示方法の研鑽に主眼を置くものとする。 ・各学年において中間発表会を開催し、主たる指導教員以外からの指導を仰ぎ、修士成果物の質的向上を図る。
学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針
大学院 芸術研究科 芸術専攻(博士課程)	【ディプロマ・ポリシー(DP)】 ・「知の最高峰」として、人類の叡智を発展的に継承し、芸術・文化に関する優れた理論研究または研究・制作に邁進し、その成果を国際社会に広く発信することによって、芸術による平和創造の礎を築くこと。 ・理論研究においては、芸術による平和創造に寄与する価値観の構築をめざし、既存の学問分野にとらわれることなく、幅広い視野と斬新な視点によって芸術文化の神髄に迫ること。 ・芸術表現・制作においては、柔軟な思考と斬新な技術によって創造の地平を切り開き、真に現代的な芸術表現に挑み続けること。
	【カリキュラム・ポリシー】 ・徹底した個別指導を基本とし、研究者／制作者としての自立を促す。 ・研究発表・展覧会での作品発表を積極的に促し、多くの視点からの批判を仰ぐことにより、研究／制作の質的向上を図る。

2-(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針
通信教育部芸術学部	【教育目標】 芸術を広く深く社会に通信する、ひとりひとりの生活環境を芸術によって充実させ、他者とのつながりを尊重しながら、旧来の価値観に囚われない芸術的創造を世界各所へ送り届けます。 総合教育科目 基礎的思考力と専門領域を生かした批判力と応用力の養成。 批判的な観察力と情報収集力を身につけ、制作・研究遂行能力を高め、創造的視点の獲得を促し、それらの伝達と共有能力を育成する。他方で、各々の関心に応じて芸術的能力、キュレーション能力、教育能力を高め、その可能性を追求する。 芸術学科 芸術的知性ある市民の育成とその活動の促進。 世界各地の文化芸術の研究者、編集者、保護者、制作者に向けて生涯にわたり各自に適切な研鑽と相互交流の機会を提供する。それにより草莽の芸術探究者にとっての芸術の源泉をかけながす養生の場となる。 美術科 社会のなかで自己実現を続ける美術家の育成。 絵画、工芸、写真の各分野での特性と歴史的表現を踏まえ、専門とする技法に習熟する。自らの生きる時間と場所を尊重しながら、継続的に創作と表現の探究に努め、学んだ芸術的素養を生かす場を作っていく。 芸術教養学科 文化的・芸術的な環境をみずから当事者として構想する力の養成。 人類の制作行為を歴史的・批判的に反省し、デザインの発想と芸術的洗練を学ぶことで、生活や仕事のさまざまな局面で新たな価値を創出する力を身につける。 デザイン科 デザインによって心豊かな生活を創出する力の育成。 人間の環境をとりまくモノのカタチを見つめ直し、新しい価値観のもとで、その意味を考えなおす視点を育成する。平面や立体から空間や環境のデザインまで、自己の生活探究からプロのデザインニングまで、未来をつくる実践力を身につける。

2-(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針
通信教育部芸術学部	【ディプロマポリシー (DP)】 京都造形芸術大学通信教育部では、学士号を取得するすべての学生に、以下の3つの力を手にして、芸術を広く深く社会に通信することのできる人材を輩出します。 ・ひとりひとりの生活環境を芸術によって充実させることができる。 ・他者とのつながりを尊重することができる。 ・旧来の価値観に囚われない芸術的創造を世界各所へ送り届けることができる。 芸術学科 世界各地の文化芸術において、研究、編集、保護、制作の分野で、生涯にわたり各自に適切な研鑽を積み相互交流の機会を創造する人材を輩出します。具体的には以下の2つの力を持った人材です。 ・自分の力で情報収集し公正な判断のもとで文化や芸術の問題を考察ないしは解決することができる。 ・卒業後、あるいは卒業の有無にかかわらず、文化芸術についての知識や技能の修得に精進し、それをもって自他の人生を豊かにできる。 美術科 絵画、工芸、写真の各分野での特性と歴史的表現を踏まえ、専門とする技法に習熟し、自らの生きる時間と場所を尊重しながら、継続的に創作と表現の探究に努め、学んだ芸術的素養を生かす場を作る人材を輩出します。具体的には以下の3つの力を持った人材です。 ・基本的な材料の扱いや知識を修め、技法と技術を持続的に向上できる。 ・表現を発展させるため足元を掘り下げるだけでなく、新しいことに挑戦できる。 ・学んだ成果を社会に生かすことができる。 デザイン科 人間の環境をとりまくモノのカタチを見つめ直し、新しい価値観のもとで、その意味を考えなおす視点を育成し、平面や立体から空間や環境のデザインまで、自己の生活探究からプロのデザインまで、未来をつくる実践力を持った人材を輩出します。具体的には以下の3つの力を持った人材です。 ・自分の力で情報収集し客観的な判断のもとで提案をまとめることができる。 ・自分の価値観や提案を説得力を持って他者に説明することができる。 ・卒業後はデザインについての知識や技能に更に精進し、プロフェッショナルとしての活躍を目指すだけでなく、日常の生活探究を通してそれを意識的に実践できる。 芸術教養学科 近代的市民社会のなかで、東アジアの文化的伝統とその芸術的洗練をもって、自己と環境のありかたの新しい形を構想できる人材を輩出します。具体的には以下の3つの力を持った人材です。 ・他者を尊重し、他者とともに学び続け、成長できる。 ・文化芸術の当事者にふさわしい広い視野を持って批判的考察ができる。 ・文化芸術の普及および構想設計に貢献できる。

2-(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針
通信教育部芸術学部	【カリキュラムポリシー】 京都造形芸術大学通信教育部のカリキュラムは、教育目標を達成するために、「総合教育科目」「学部共通専門教育科目」「コース(学科)専門教育科目」で構成されています。 ・総合教育科目: 教養ある市民の備えるべき基本的な知識、視点、リテラシーを学ぶ ・学部共通専門教育科目: 芸術を学ぶものにとって基盤となる知識、見識、技能を養う ・コース(学科)専門教育科目: それぞれの分野における専門性を獲得する 芸術学科 総合教育科目および学部共通科目については芸術学部を参照。専門教育科目のうち「1・2年次配当科目」はDP1を達成します。「3・4年次科目」ではDP2を達成します。 DP1: 自分の力で情報収集し公正な判断のもとで文化や芸術の問題を考察ないしは解決することができる。 DP2: 卒業後、あるいは卒業の有無にかかわらず、文化芸術についての知識や技能の修得に精進し、それをもって自他の人生を豊かにできる。 美術科 総合教育科目および学部共通科目については芸術学部を参照。専門教育科目のうち「1・2年次配当科目」はDP1を達成します。「3・4年次科目」ではDP2およびDP3を達成します。 DP1: 基本的な材料の扱いや知識を修め、技法と技術を持続的に向上できる。 DP2: 表現を発展させるため足元を掘り下げるだけでなく、新しいことに挑戦できる。 DP3: 学んだ成果を社会に生かすことができる。 芸術教養学科 芸術教養学科では、「総合教育科目」にてDP1を達成し、「芸術学部共通科目」でDP2を達成します。「芸術教養学科専門科目」ではDP3の達成を目指します。 DP1: 他者を尊重し、他者とともに学び続け、成長できる。 DP2: 文化芸術の当事者にふさわしい広い視野を持って批判的考察ができる。 DP3: 文化芸術の普及および構想設計に貢献できる。 デザイン科 総合教育科目および学部共通科目については芸術学部を参照。専門教育科目のうち「1・2年次配当科目」はDP1+DP2を達成します。「3・4年次科目」ではDP2+DP3を達成します。「4年次配当科目」のうち、特に「卒業制作」ではDP1、DP2の達成はもちろんのこと、DP3の達成を目指します。 DP1: 自分の力で情報収集し客観的な判断のもとで提案をまとめることができる。 DP2: 自分の価値観や提案を説得力を持って他者に説明することができる。 DP3: 卒業後はデザインについての知識や技能に更に精進し、プロフェッショナルとしての活躍を目指すだけでなく、日常の生活探究を通してそれを意識的に実践できる。

2-(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針
大学院芸術研究科 (通信教育) 芸術環境 専攻	【教育目標】 社会のなかで芸術的才能を伸長し、洗練させることを目標とします。 ・ひとりひとりの生活環境を芸術によって充実させ ・他者とのつながりを尊重しながら ・旧来の価値観に囚われない芸術的創造を世界各所へ送り届ける 【ディプロマポリシー (DP)】 今日の世界の芸術環境を育む活動の源泉となる人材を送り出します。 ・世界の中で芸術活動の持つ営みを十分に自覚して研究・制作を行う。 ・さまざまな専門分野での知見を深め、それを継続的に更新できる。 ・他者を尊重しつつ自律的に研究・制作活動を遂行できる。 【カリキュラム・ポリシー】 京都造形芸術大学大学院芸術研究科(通信教育)芸術環境専攻では、教育目標を達成するために、講義科目と演習・研究科目とを設けています。 ・DP1を達成するため、本専攻で学ぶ全員にとって必須の科目として「芸術環境論特論」「芸術環境原論」を開講しています。 ・DP2を達成するため、「芸術環境特論」「美術・工芸特論」「環境デザイン特論」および「自由研究」を設けています。 ・DP3を達成するために、「芸術環境演習」「芸術環境研究」「美術・工芸演習」「美術・工芸研究」「環境デザイン演習」「環境デザイン研究」を設けています。